

# 国語科学習指導案

日 時 平成 29 年 10 月 27 日（金）公開授業Ⅱ  
児 童 5 年生  
授業者  
授業場

1 単元名 プレゼンテーション式報告会で調べたことを紹介しよう ～中心教材「まんがの方法」～

## 2 単元の目標

総合的な学習の時間で調べたことを紹介するために、関連する文章を読む言語活動を通して、事実と意見との関係を押さえながら、論の構成についての自分の考えを明確にして読むこと。

（中心となる指導事項ウ 関わる言語活動例イ）

## 3 単元について

### （1）単元観

本単元は、総合的な学習の時間及び、国語科の「話すこと・聞くこと領域」「読むこと領域」の指導を複合的に捉えて構想したものである。以下、「読むこと領域」で指導する単元観について述べる。

本単元では、総合的な学習の時間の中で調査してきた内容や方法について、プレゼンテーション式報告会で紹介するために、意見を述べた文章や解説の文章などを活用する言語活動を通して、①事実と意見などとの関係を押さえながら、論の構成についての自分の考えを明確にしながら読むこと、②それを通して自分の考えを広げたり、深めたりしようとする読書の態度を養うことを目指している。本単元で扱う中心教材「まんがの方法」は、誰でも目にしたことのある「7つのまんがの方法」について、あまり知られていないそれらの効果を筋道立てて説明している。また、結論からは「読み手自身が、その他のまんがの方法を見つけることで、今までよりもっとまんがを楽しんでほしい」という筆者の意図を読み取ることができる。そのため、本文では敢えて「まんがの方法」の一部のみを紹介している。「まんがの方法」を説明する本論においては、「説明・役割（効果）・具体（挿絵との関連）」を効果的に組み合わせる文章が多く見られ、これらの説明の構成には、前述した筆者の意図との結び付きがあると考えられる。以上のような教材の特徴から、読み手の日常生活と具体的に結び付く事例をきっかけとしながら、筆者の論の進め方やその意図について、自分の考えを明確にしながら読み進めることができる作品であると考えた。また、児童がプレゼンテーション式報告会でスピーチをする際の「文章（原稿）とはどのようなものか」について、自分との接点を持ちながら読むことに適した教材であると捉え、読み進める中で明らかになった文章（原稿）を「どのように話すか」などについては他領域「資料をくふうして効果的に発表しよう」で指導するなど、「読むこと」「話すこと・聞くこと」との関連を図っていくこととする。

### （2）目指す児童・生徒像

児童はこれまでに、「読むこと」領域（説明的文章）において次のような活動を体験し、言語能力を身に付けてきた。

これまでに児童が体験した活動	獲得した（発揮される）言語能力	本単元において重点的に獲得させていきたい言語能力
○体験したことを新聞でまとめるために、実際の新聞記事や関連する文章を読む活動	○筆者が述べている <b>事実と意見</b> の関係性に着目して読む力 ○筆者の <b>主張</b> とその根拠になる <b>事例やその構成</b> についての考えを明確にしながら読む力 ※構成の意図や表現の <b>意図への着目</b>	○ <b>文章全体の構成を捉えながら、論の進め方（説明・資料との関連等）やその意図など</b> についての自分の考えを明確にして読む力

### （3）指導観

「認識から思考へ」「思考から表現へ」のプロセスを重視した言語活動の充実

「日常生活との関わりを意識した、活動自体に納得が図れる言語活動」を意識して学習過程をデザインしていく。本単元では、「日常生活」を総合的な学習の時間との関わりと捉え、「学年の仲間に自分が調査してきた内容・方法を伝える」という相手・目的意識をもたせることで、プレゼンテーション式報告会と

いう言語活動への納得を図っていく。プレゼンテーションは「伝えたい事柄（事実）や主張（意見）」を、フロアが引き付けられるように見ることができるよう構成や資料提示の工夫がされているという特性を有しており、児童がこれまでの生活経験（朝会等）の中で目に触れたことがある対象物でもある。本教材においては「読み手の実体験に迫る序論」「読み手が興味をもって対象と関わるきっかけづくりを意図した結論」と、「説明の中心になる本論における文章」という文章全体の構成やそのつながりに着目し、「筆者がどのような意図で説明しているのか」についての考えを明確にできるように単元をデザインしていく。

これらを踏まえ、次のような「見方・考え方」を段階的に引き出し、ねらいとする思考を高めていくことで目指す児童の姿に繋げていくこととする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

**本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性**

<b>目指す獲得させたい言葉の力</b>
事実と意見との関係を押さえながら、論の構成についての自分の考えを明確にして読む力

**国語科において目指す「対話的な学び」**

<b>一単位時間において引き出したい「見方・考え方」を含む思考</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの原稿（中心教材を含めた関連図書）の中で、自分が最もよいと思う文章を選んでみよう。</li> <li>・関係する文章を詳しく読んでみると、紹介する方法がもっとわかるかもしれないね。</li> <li>・「まंगाの方法」の結論を読むと、「<b>まंगाをもっと楽しんで読んでもらいたい</b>」という筆者の思い（意図）がわかるね？筆者はその思いが伝わるようにどんな工夫をしているのかな？</li> <li>・<b>序論や本論など、文章全体</b>にその秘密が隠されていそうだよ。</li> <li>・いくつかの事例を述べるときには、<b>挙げる事例の意味</b>を考える必要があるんだね。事例の具体を述べるときはどうするのか？</li> <li>・<b>筆者のねらいによって違う、文章全体の構成のつながり</b>を読み取ると、説明の工夫がはっきりするんだね。</li> <li>・わかりやすいプレゼンテーション原稿の秘密がわかったよ。自分たちが調査してきたことをまとめよう！</li> </ul>
<b>本単元において目指す児童の姿</b>

**①既存の言語能力による意味付けを揺さぶる教師のかかわり** ～ ①

前述のような「言葉による見方・考え方」を拡充したり鍛えたりすることができるように、一単位時間において次のような教師のかかわりを通して既存の言語能力による意味付けを揺さぶっていく。

時	主な教師のかかわり	鍛える・拡充する見方・考え方
2	中心教材の序論と結論のみを提示し、要旨を捉えた上で、 <u>空所となっている本論（具体のあり方）を問う</u> ことで、本論の構成に着目できるようにする。	【言葉の意味】 要旨や大まかな文章構成における筆者の意図
3	中心教材以外の「 <u>まंगाの方法（事例）</u> 」を提示し、 <u>7つを取り上げた筆者のねらいを問う</u> ことで、筆者の構成とその意図について捉え直すことができるようにする。	【言葉の働き・使い方】 筆者が取り上げた7つの事例の意図
4 (本時)	中心教材や比較作品の資料を提示し、 <u>最も必要なものを問う</u> ことで、全体構成における筆者の意図と説明の方法のつながりについて捉え直すことができるようにする。	【言葉の働き・使い方】 序論・結論の意図とつながる本論の説明

**4 評価規準**

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・技能
ア 課題を解決する見通しをもちながら、文章の特徴を読むとしている。	ア 文章の大まかな構成の仕方に着目しながら、内容的に的確に押さえて読んでいる。 イ 筆者が挙げている事例に着目して読み、それに関わる筆者の意図について、自分の立場や考えを明確にして読んでいる。 ウ 筆者が挙げている事例の説明方法に着目して読み、その構造に関わる筆者の意図について、自分の立場や考えを明確にして読んでいる。	ア 文章全体の構成は目的に応じて異なることを理解しながら文章を読んでいる。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>プレゼンテーションの原稿として複数の文章を提示することで、書き手の意図とピッタリ合う文章についての気付きを促す。 <b>A-①</b></p>	<p><b>1 時間目</b></p> <p>総合的な学習の時間の調査内容をプレゼンテーションで説明するための原稿作りを進めていくことを共有し、大まかな学習計画を立てる。 <b>関ア</b></p>	<p>それぞれの筆者の意図が伝わるかどうかについて問い、読み手を意識した原稿作りについての考えを広げていくことができるようにする。 <b>I</b></p>
<p>複数の比較作品（並行読書用）を紹介することで、読みを広げるきっかけづくりを促す。 <b>A-①</b></p>	<p><b>2 時間目</b></p> <p>中心教材「まんがの方法」及び関連作品の序論・結論から<b>要旨や筆者の意図を捉えた上で</b>、本論の述べ方についての感想や疑問を交流する。 <b>読ア</b></p> <p>結論に書かれているキーフレーズを読み取ると、大体の構成の意味がはっきりする。</p>	<p>文章の序論と結論のみを提示し、<b>要旨や主張（3・4時間目の土台）</b>を捉えた上で、空所となっている本論を考えることで、共通点や相違点について着目しながら、<b>文章全体の構成の意図</b>について、現時点での考えをもてるようにする。 <b>I</b></p>
<p>要旨について考えをまとめたり、比較作品を読んだりする時間を保障する。 <b>B-①</b></p>	<p><b>3 時間目</b></p> <p>筆者が取り挙げている7つの事例の意図を読み、それらについての自分の考えをまとめる。 <b>読イ</b></p> <p>それぞれの事例を選んだ理由を読み取ると、本論の筆者の意図がはっきりする</p>	<p>中心教材及び比較作品の、事例の意味の共通点や相違点を問うことで、<b>序論や結論と結び付く本論の大まかな構成</b>について捉え直すことができるようにする。 <b>I</b></p>
<p>中心教材の事例以外の「まんがの方法」を提示することで、文章全体の構成のつながりについての読みを促す。 <b>A-①</b></p>	<p><b>4 時間目【本時】</b></p> <p>筆者の説明の具体的構成を読み、それらについての自分の考えをまとめる。 <b>読ウ</b></p> <p>絵や写真と言葉のつながりを読み取ると、筆者の説明の工夫がはっきりする。</p>	<p>中心教材及び比較作品の本論の構成のねらいを問うことで、<b>序論と結論の意図と本論の構成のつながり</b>について捉え直すことができるようにする。 <b>I</b></p>
<p>取り上げる事例の意図について考えをまとめたり、比較作品を読んだりする時間を保障する。 <b>B-①</b></p>	<p><b>5 時間目</b></p> <p>中心教材及び比較作品の筆者の意図と構成や資料活用等のつながりについて読み、自分の考えをまとめる。 <b>言ア</b></p>	<p>中心教材及び複数の比較作品の中から、自分の原稿作りのイメージに最も近いものとその理由を問い、中心教材との関連性への気付きを促していく。 <b>I</b></p>
<p>比較作品を提示することで、読み比べてきた文章を基に、筆者の説明の工夫への着目を促す。 <b>A-①</b></p>	<p>プレゼンテーションの意図と文章や資料及びそれらのつながりの効果を考えながら、原稿を作成する（上記の単元と並行して）</p>	
<p>筆者の事例部分の説明の構成について考えをまとめたり、比較作品を読んだりする時間を保障する。 <b>B-①</b></p>	<p><b>プレゼンテーション式報告会を行う～資料をくふうして効果的に発表しよう～</b></p>	
<p>テーマを効果的に伝えるための「構成」「説明の具体」に着目して読み直ししながら、原稿を作成する時間を保障する。 <b>B-①</b></p>		

6 本時について（4/5 時間目）

(1) 本時の目標

中心教材「まんがの方法」や比較作品の本論の構成の違いについて交流することで、それぞれの筆者の「序論と結論の意図」と「本論の構成」の結び付きについて、自分の立場や考えを明確にして読むことができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、「対話的な学び」の中で「見方・考え方」を高めていくための工夫を以下のように位置付けていく。

既存の言語能力による意味付けを揺さぶる教師のかかわり～I

<p><b>個で思考する場面</b> 比較作品を提示したり、現時点での自分の考えを想起したりしながら、<u>構成やその意図を考えるきっかけづくり</u>を行う。</p>	<p><b>全体で思考する場面</b> ～対話的な学びの軸～ 必要に応じて、<u>筆者の構成の意図を問い、他者の考えとの比較を促す</u>ことで、目的に応じた論の進め方に着目できるようにする。</p>	<p><b>ねらいとする思考を意図的に引き出すための教師のかかわり</b> 中心教材や比較作品の全体構成を共有し、<u>比較から共通点・相違点などを問う</u>。</p>	<p><b>個に帰帰する場面</b> 関連図書と比較しながら筆者の事例の挙げ方やその意図について、自分の考えを再構成することができるようにする。</p>
--	--	---	--

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導(▲)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の学習の見通しを明確にする。 前の時間までは、取り上げられている事例と全体の構成の大まかなつながりについて考えたよ。 「まんがの方法」の筆者の本論の構成や説明は、結論で述べていることと本当につながっているのかな？ 「まんがの方法」と他の作品を比べてみるとどうかな？ 何となく、「まんがの方法」の方が読みやすいな。      どんな違いが隠れているのかな？</p> <p>2 人の筆者の本論と結論のつながりを比べれば、「まんがの方法」の文章のヒミツがわかるかもしれないね。</p>	<p>○結論の意図は類似していても、本論の構成が異なる比較作品を提示し、その理由を問うことで、現時点での自分の立場を考えながら、一単位時間の見通しや必要感を生み出すことができるようにする。      <b>A-①</b></p>	
<p><b>筆者の主張を伝えるための文章の“ヒミツ”を見つけよう</b></p>		
<p>2 文章全体の構成やそのつながりを読む。 どの文章にも資料が使われているから、わかりやすいよ。      本論の事例が、主張につながっている感じがするよ。</p> <p>3 考えとその根拠を全体で交流する。 比べて読んでみて、何か気付いたことはあるかな？ <u>資料の組み合わせ</u>を工夫しているから、結論で言っていることがわかるね。      <u>主張を強く伝えるために、結論の言葉と本論の言葉を結び付けているよ。</u></p> <p>筆者は<u>文章と資料を上手に結び付けながら、本論の説明</u>をしているんだね。どちらも<u>結論とのつながり</u>が読み取れるよ。</p> <p><u>序論も合わせて読み直すと、やっぱりそれぞれのねらい(意図)があるんだね。どうして2人の筆者はこのような本論の構成にしたのかな？</u></p> <p>2人の筆者は、<u>最後に伝えたい主張をどう伝えるか</u>を考えながら、<u>文章全体の構成のつながり</u>を意識しているんだね。だから、<u>2人の本論の説明の方法</u>が違うんだね。</p>	<p>○必要に応じて、考えの根拠について問い、一人一人が立場と根拠を明確にできるようにする。</p> <p><b>【必要に応じて行う発問の例】</b> <b>個の立場・考えの表出</b> ○なぜ？どの言葉に注目した？ <b>自分と他者の考えの比較・分類・整理</b> ○考えは友達と同じ？ ○友達に説明できる？ ⇒少人数交流を促す</p> <p><b>【発問・問い返し】</b> 中心教材や比較作品における、筆者の全体構成(序論から結論まで)のつながりの共通点や相違点や、一見、筆者の構成のデメリットに見える部分を問うことで、筆者の意図に沿った構成の違いについての考えを明確にできるようにする。      <b>手立てI</b></p>	<p><b>【読む～ワークシート】</b> ▲活動が停滞している児童には、友達の考えを聞いて、考えを整理していくように促す。</p>
<p><b>【説明文のカギ～プレゼンテーション原稿作成のヒント③～】 筆者のねらいによって違う、文章や資料の構成を読み取る</b></p>		
<p>4 全体交流を基に、ワークシートに筆者の文章構成についての自分の考えを整理する。 ・「まんがの方法」の構成に共感だよ。<u>相手に興味をもってもらうためには、資料の構成(本論)も工夫</u>していくことが必要だからね。 ・文章Aの構成にも共感できるよ。<u>序論で言っていることから、結論までの構成や言葉がよくつながっている</u>からね。</p> <p>5 本時における自分や他者の読みについて振り返り、次時への見通しを持つ。</p>	<p>□中心教材及び比較作品を読む時間を保障し、意識的に「文章全体の構成やその意図」を捉えながら、本時で獲得した言葉の力の自覚化を図っていくことができるようにする。      <b>B-①</b></p> <p>○筆者の工夫についての考えを蓄積できたことについて価値付けし、本時の学びの有用性について一層実感することができるようにする。</p>	<p>▲根拠となる言葉に着目できていない児童には、全体への問い返しや板書の内容を基に理解を促すことができるようにする。</p> <p><b>【読むワークシート】</b></p>

